

# 上肢 1

- XI 上肢の体表観察
- XII 上肢前面（屈側部）の表面観察
- XIII 前上腕部

# 体表観察

手引き 18 ページ

メスを入れる前に、各部位について観察、触知する

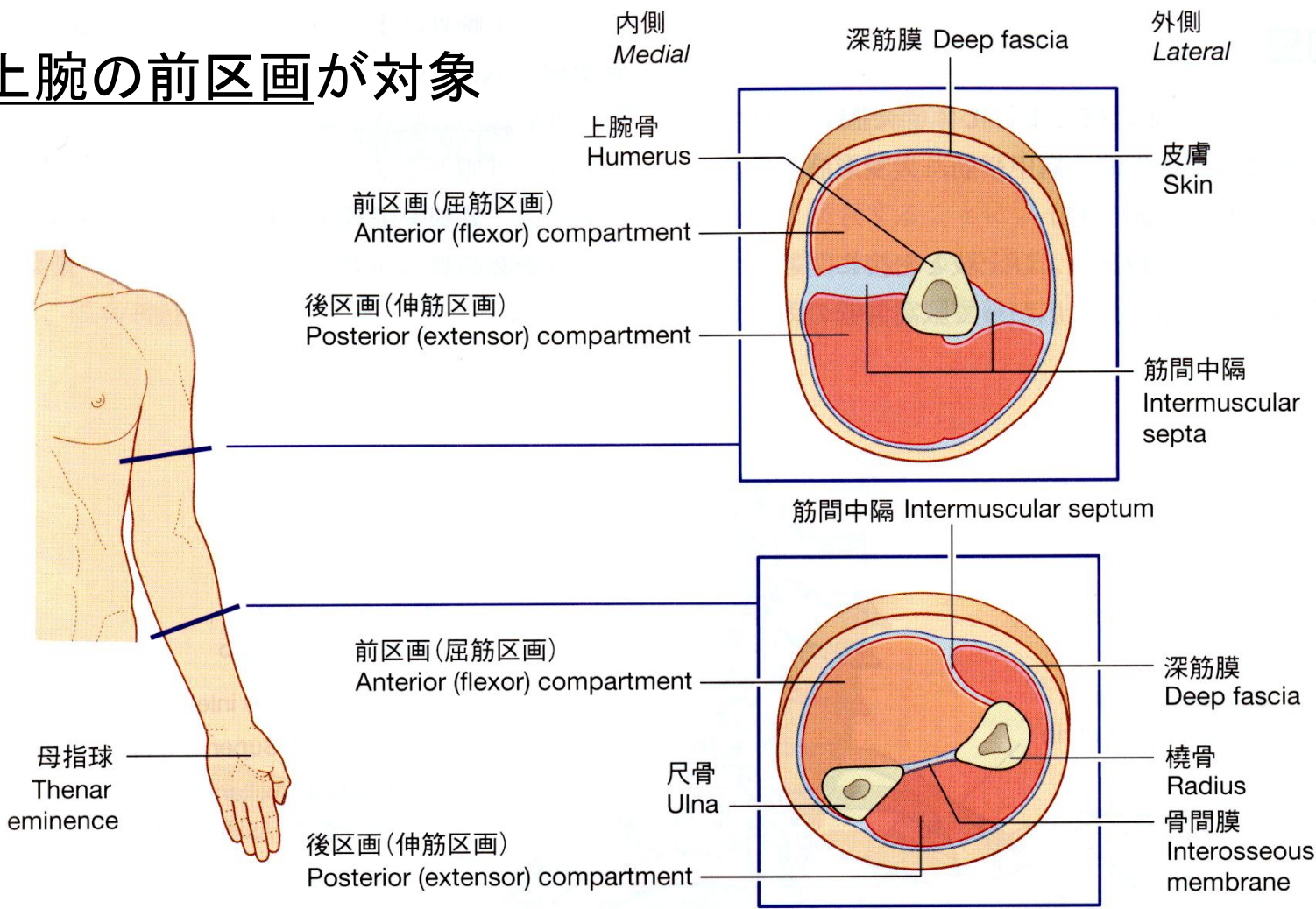
- 鎖骨
- 肩甲骨
  - 上角・下角
  - 内側縁・外側縁
  - 肩甲棘
  - 肩峰
  - 烏口突起
- 上腕骨
  - 上腕骨頭
  - 大結節
  - 内側上顆
  - 外側上顆
  - 尺骨神経溝

腹臥位のとき  
観察

- ・ 尺骨
  - 肘頭
  - 茎状突起
- ・ 橈骨
  - 橈骨頭
  - 茎状突起

深筋膜（上腕筋膜と前腕筋膜）は上肢の筋を包み、その一部は骨に向かい筋間中隔を形成する。筋間中隔や骨間膜により前区画（屈筋区画）と後区画（伸筋区画）に区分される。

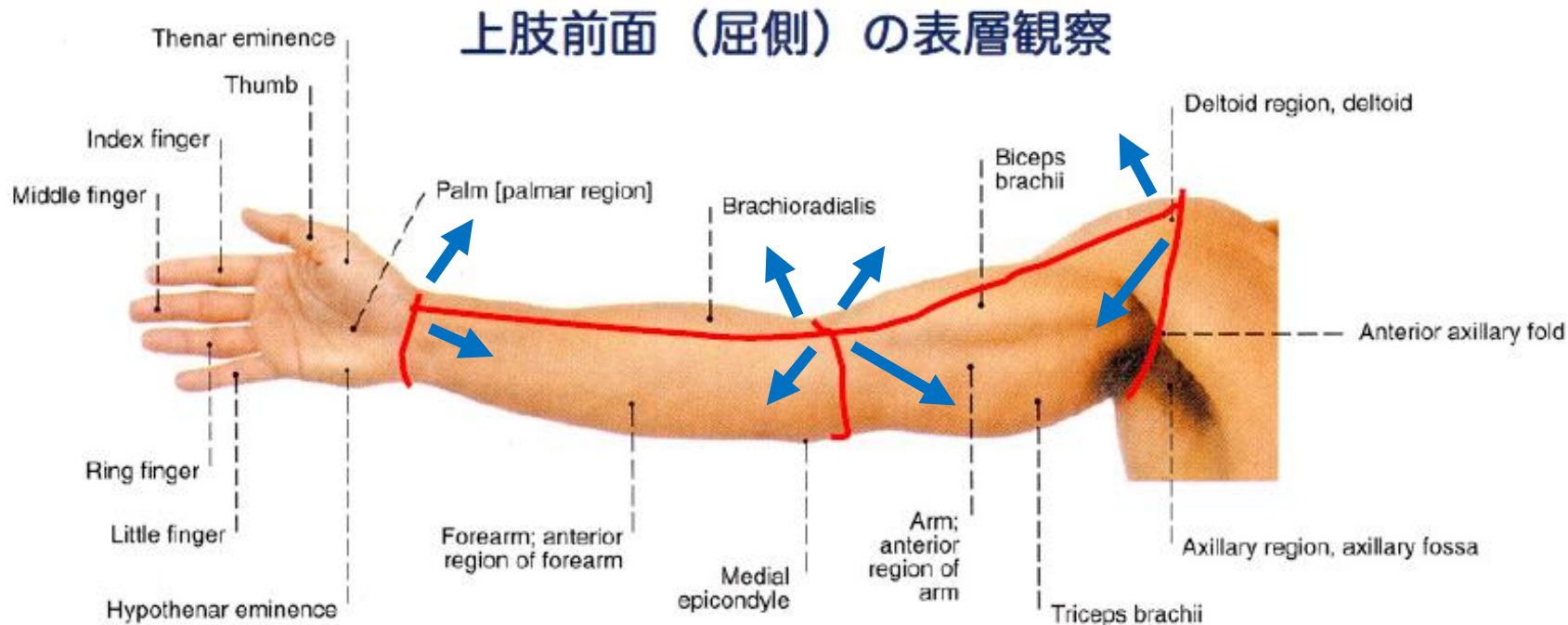
本日は上腕の前区画が対象



# 切開線を入れる

手引き 18 ページ

1. 肩峰と腋窩中央部を結ぶ環状の切開線
2. 前腕の両茎状突起を結ぶ環状の切開線
3. 肩峰から橈骨 茎状突起まで縦の切開線を入れ、  
肘頭の高さで環状の切開線を入れる。
4. 切開線の部位から上腕および前腕の屈側面の皮膚を剥離する

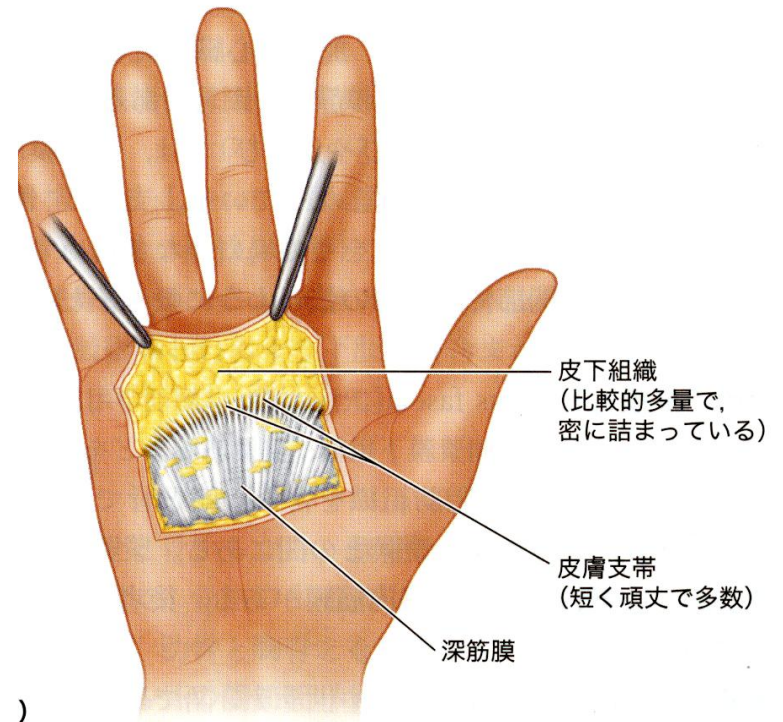


環状の線は背臥位で入れることができるところまで  
(腹臥位（うつ伏せ）にする必要はない)

手掌の皮膚は皮はぎに時間がかかるため、時間のある時に手掌の皮はぎをすすめる。

さいの目状に切れ込みを入れて皮はぎをおこなう。

手がグーになっているご遺体は、少しずつ力を入れて、指を伸ばしておくこと。



- ・ 橈側皮静脈
- ・ 尺側皮静脈
- ・ 肘正中皮静脈を剖出する

橈側皮静脈

肘正中皮静脈

採血に使用。上腕二頭筋腱膜の上を通るため上腕動脈や正中神経を傷つけない。浅くて適当な太さがある。脱衣する必要がない。

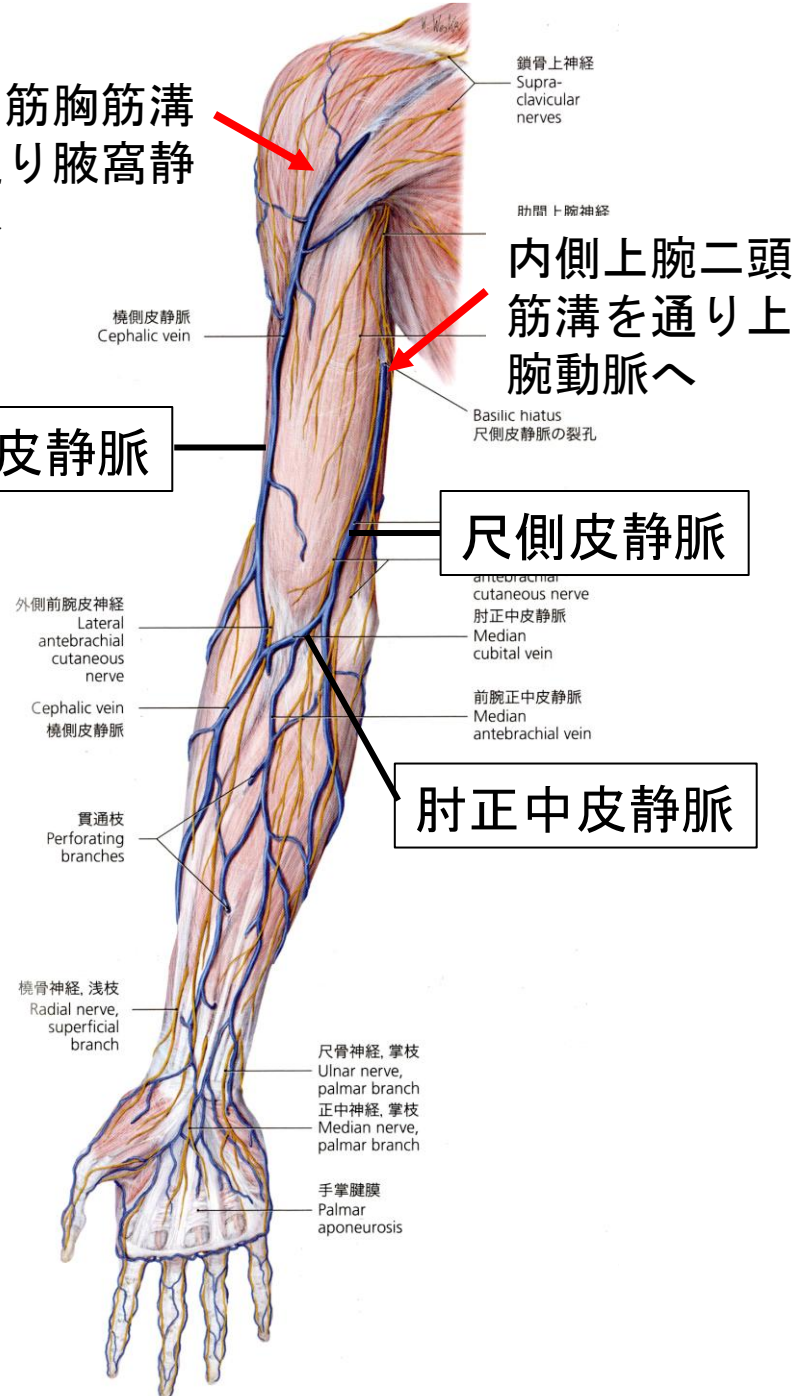
尺側皮静脈

三角筋胸筋溝を通り腋窩静脈へ

橈側皮静脈

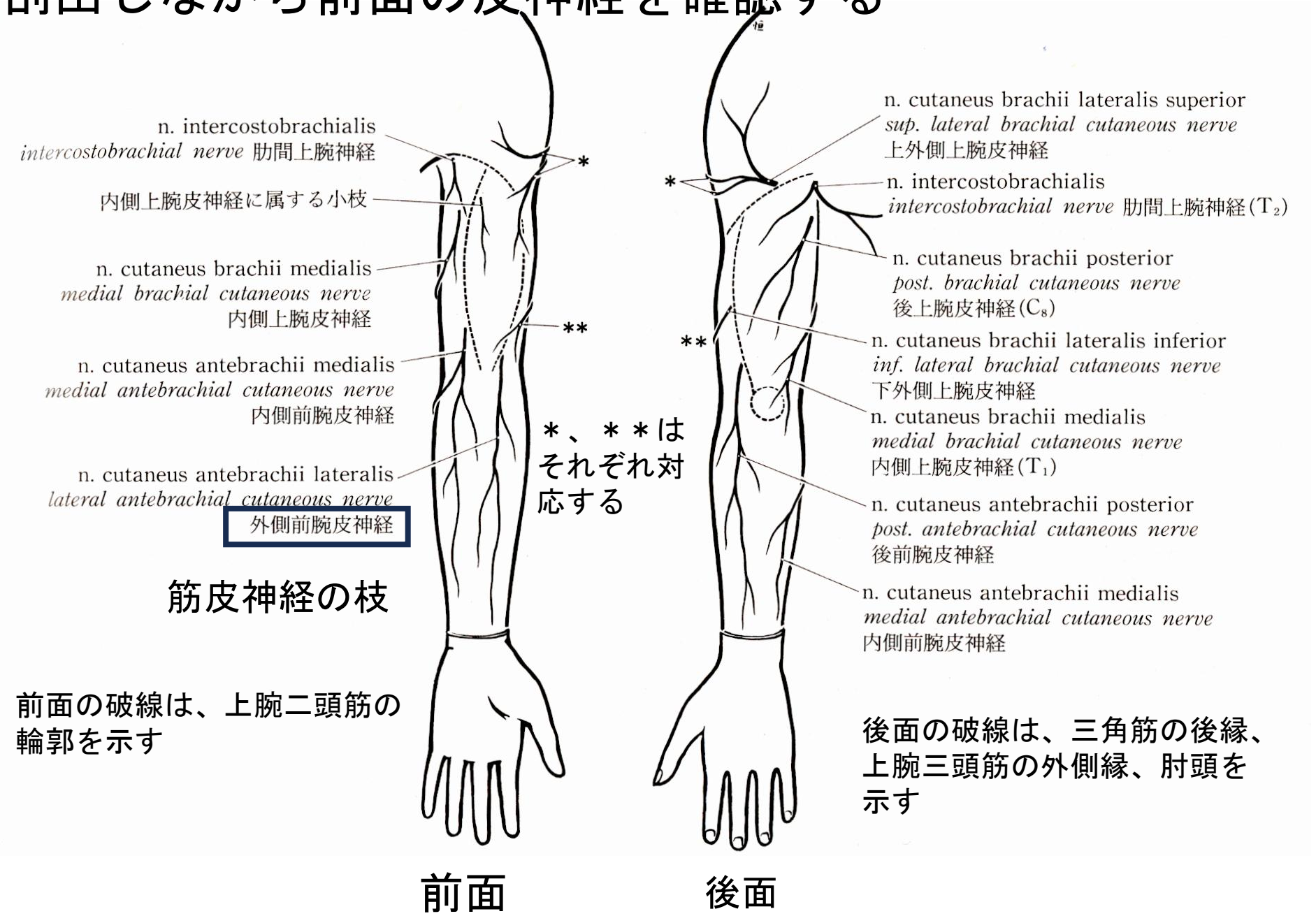
尺側皮静脈

肘正中皮静脈





# 剖出しながら前面の皮神経を確認する



## 感覚支配(皮膚)

肋間上腕皮神経

内側上腕皮神経

：腋窩神経

：筋皮神経

：橈骨神経

：正中神経

：尺骨神経

外側前腕皮神経

内側前腕皮神経

前面

後面

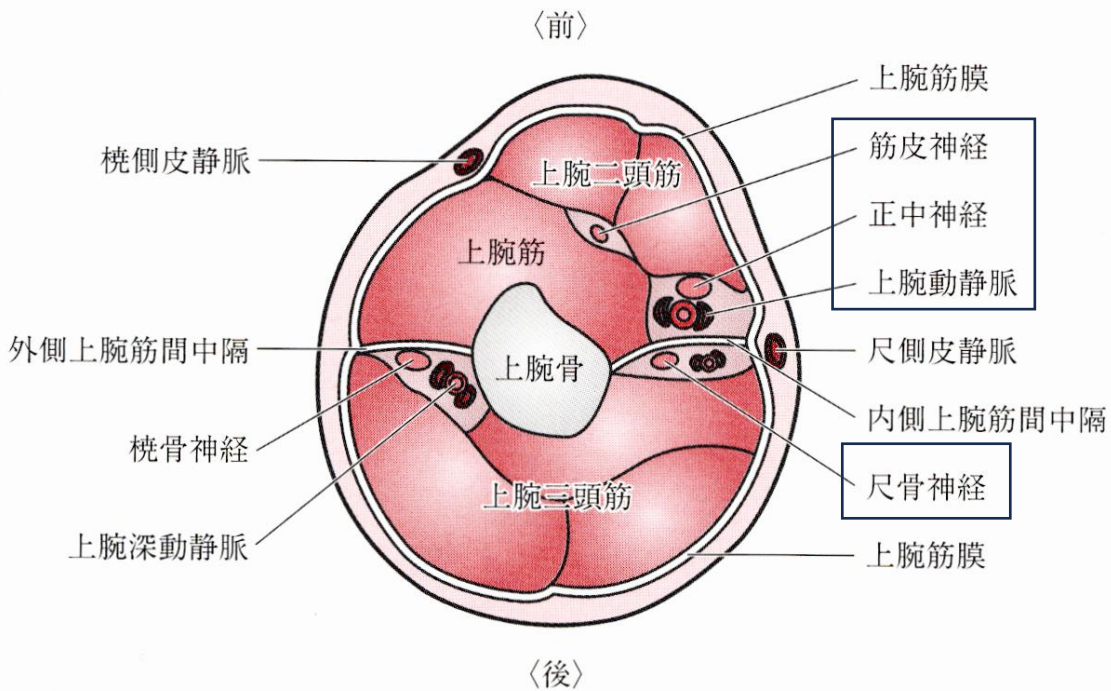
上外側上腕皮神経

下外側上腕皮神経

後上腕皮神経

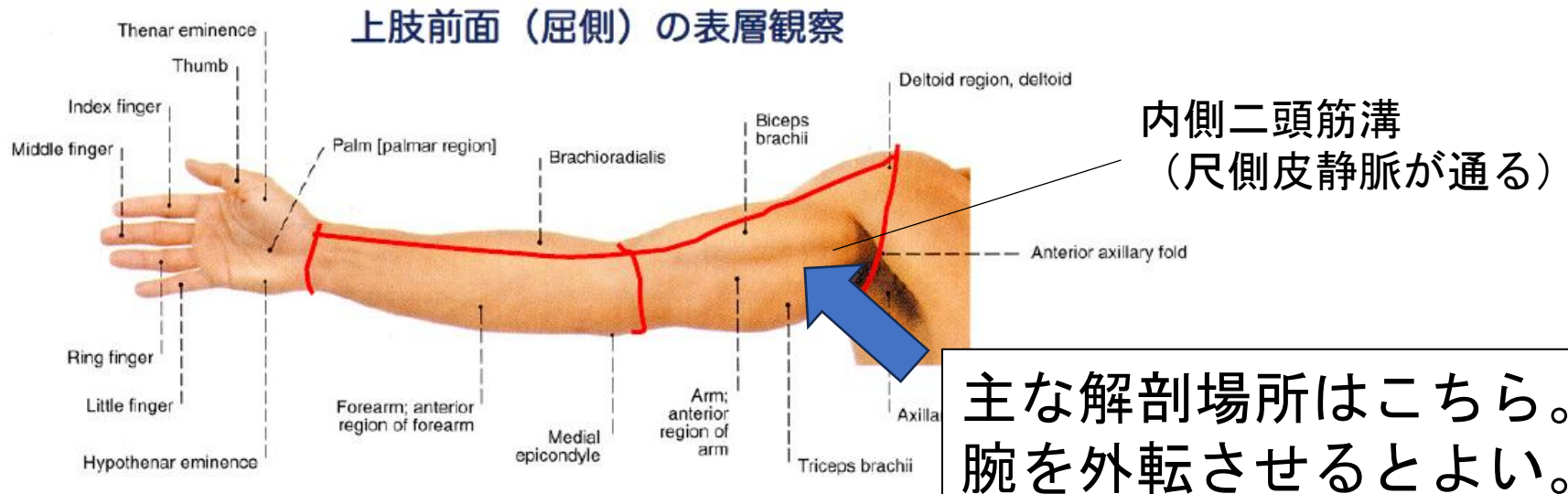
後前腕皮神経

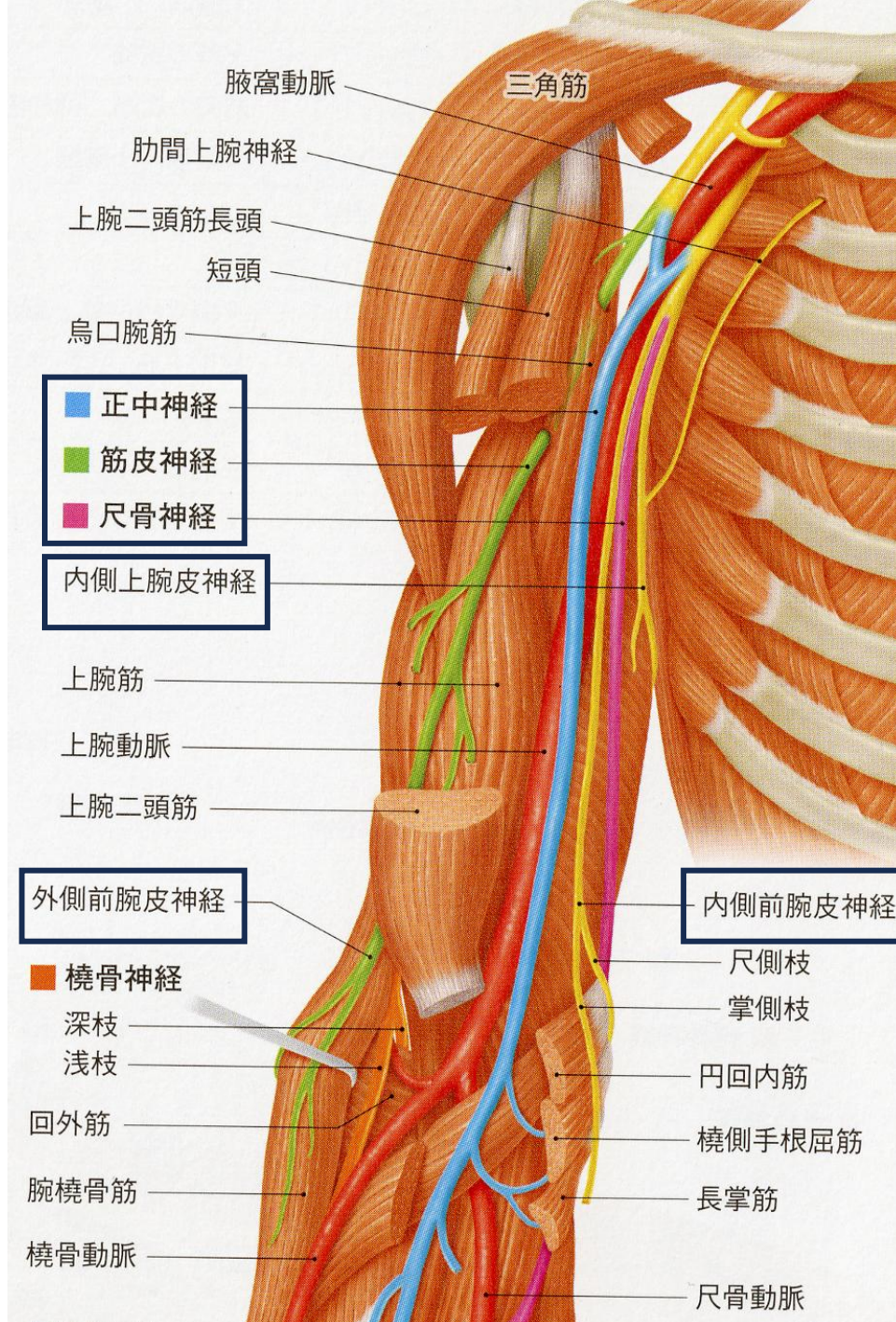




内側上腕筋間中隔にある神経・血管を剖出する

解剖学講義（南山堂） 図 2-46 上腕中央部の横断

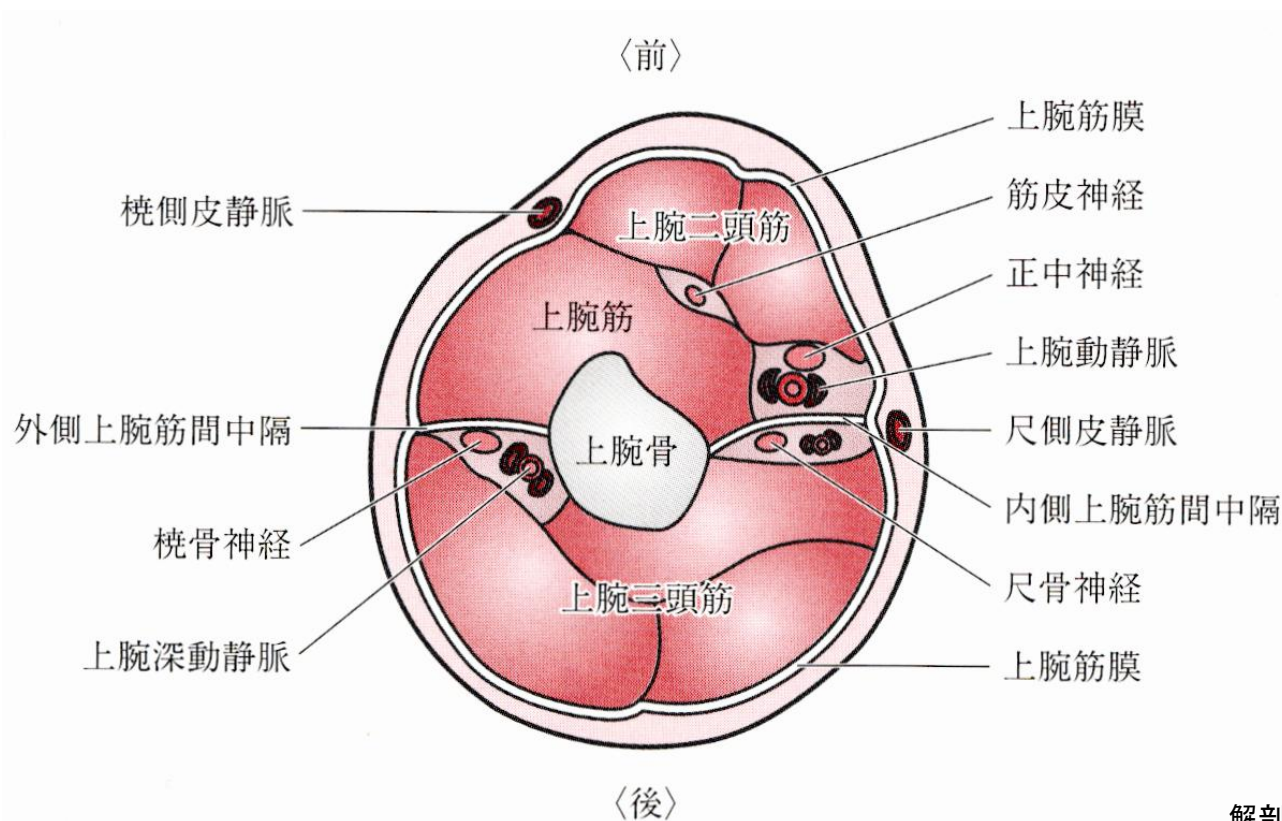




筋皮神経・正中神経・  
尺骨神経を剖出する。  
走行を確認する。



上腕動脈とその枝を剖出する。  
 伴行する上腕静脈は動脈からはがす。  
このとき、動脈から出る枝は切らないように！



解剖学講義 (南山堂)

図 2-46 上腕中央部の横断

## 上肢の静脈

浅静脈（皮静脈）：皮下を走る

**深静脈**：動脈に伴って走る伴行静脈で、動脈と同じ名称で呼ばれる。

同名の動脈の同側を2本の静脈が対になって走る。

上腕動脈から分岐しているところを剖出する

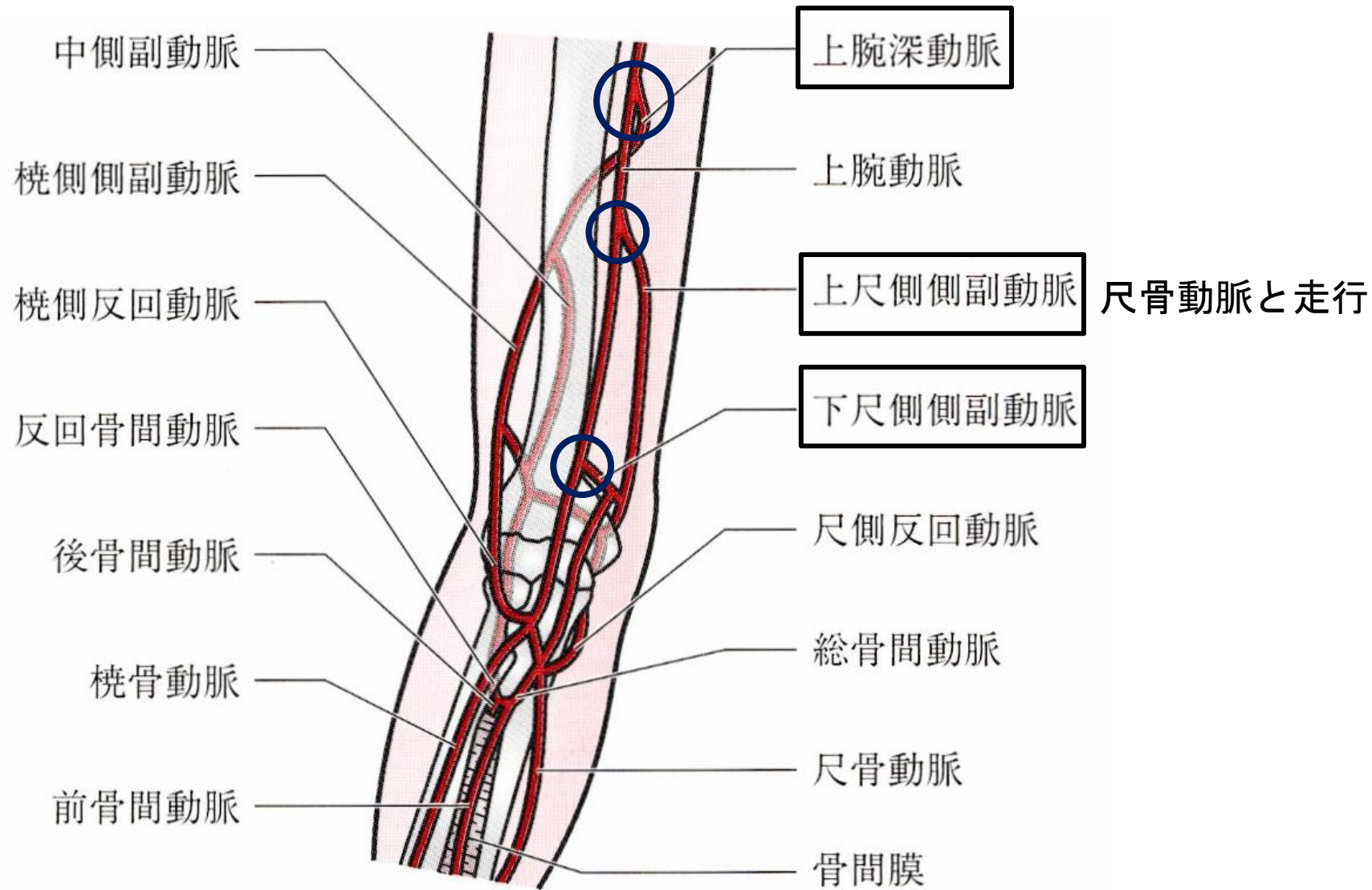
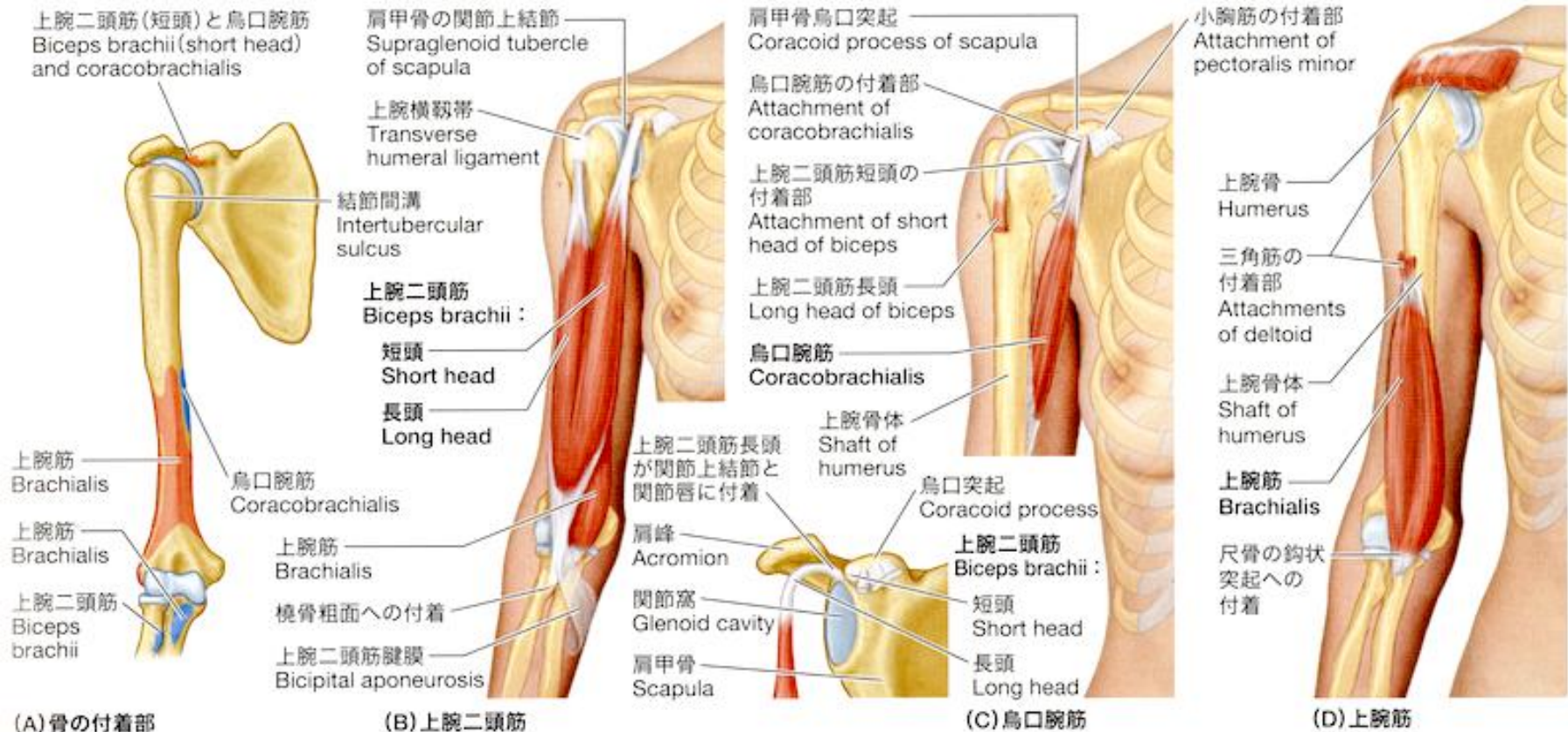


図 2-87 上腕動脈・橈骨動脈・尺骨動脈

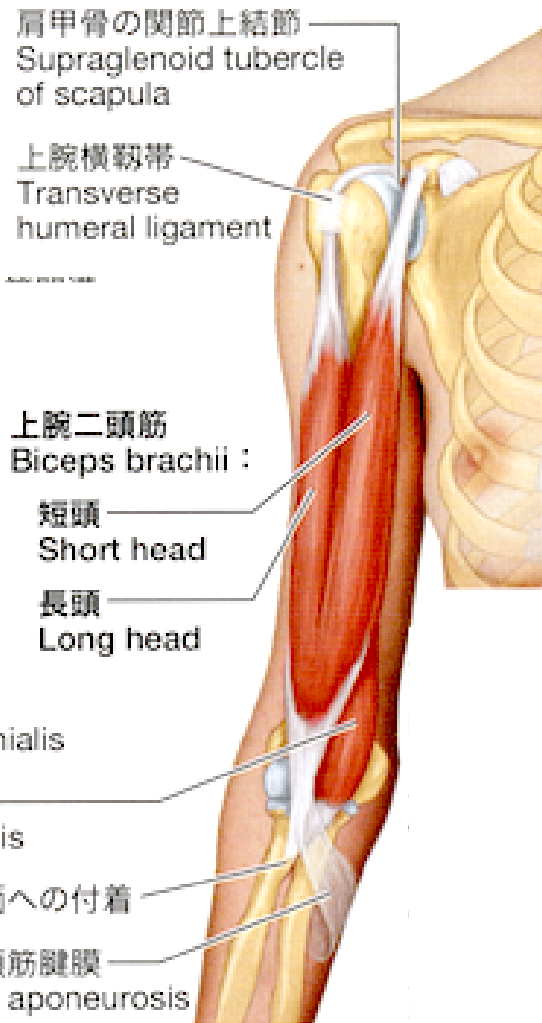


# 上腕二頭筋、上腕筋、烏口腕筋を確認する。



上腕二頭筋の長頭と短頭の間に  
指を入れてわかる

# 筋は、「起始・停止・支配神経・作用」をセットで覚えること



(B) 上腕二頭筋

回外位

上腕二頭筋 (Biceps brachii)

作用：前腕の屈曲、回外に働く

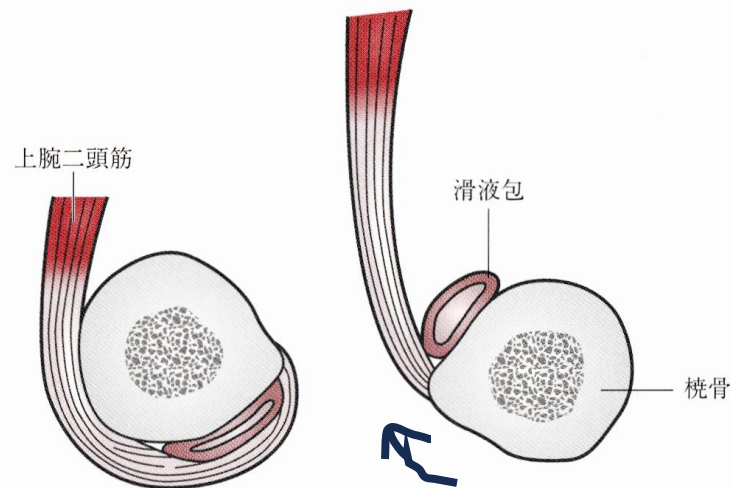
支配神経：筋皮神経

起始：長頭：関節上結節

短頭：烏口突起

停止：橈骨粗面

前腕筋膜（上腕二頭筋腱膜として）



a. 前腕回内位

b. 前腕回外位

解剖学講義（南山堂）

図 2-43 上腕二頭筋の前腕回外作用

上腕二頭筋の橈骨付着部はまわりこんだところにあるので、上腕二頭筋が収縮すると橈骨頭は外旋する。

1. 体表観察と指標となる構造の触知を行う。
2. 切開線を入れ、皮剥ぎを行う。
3. 上肢前面の皮静脈、皮神経の剖出を行う。
4. 筋皮神経（外側前腕皮神経）、正中神経、尺骨神経の走行の確認と剖出。
5. 内側二頭筋溝から上腕筋、上腕動静脈、腕神経叢由来の神経を剖出する。
6. 上腕動脈とその枝を剖出し、伴走する上腕静脈をはがす。  
（動脈からの分岐は残すこと）
7. 上腕二頭筋、上腕筋、烏口腕筋を確認する。
8. 頸部が終わっていなければ、続きを行う。

-----教員のチェックを受ける-----

最後に実習台まわりの床を確認して、体液が垂れていたら雑巾で拭くこと